

## 南あわじ市神代社家人・農地プランで未来志向

# 新規就農者中心経営体



秋からレタス農家になる和田さん(右から2人目)と三好委員(同3人目)

## 農委が中心にプランを作成

南あわじ市神代社家集落では、新規就農者を人・農地プランの中心経営体位置づけ、担い手の確保と育成に取り組んでいる。

同集落では、農業委員の三好州宏さん(73)を中心に人・農地プランを作成。尼崎市出身の新規就農者・和田典之さん(25)を含む6経営体を中心経営体位置づけた。

長野県の農業法人に就職し、いずれは出身地の兵庫県で就農したいと考えていた和田さんは、レタスを担当していたこともあり、昨年12月にレタスの産地である南あわじ市へ移住した。

現在は農業法人(株)アグリアイランドでアルバイトをしているが、秋からは同集落でレタス農家としてスタートする。

市から和田さんを紹介された三好委員は「集落内の高齢化が深刻。若い就農者が耕作してくれるのなら、ぜひ応援したかった。今後若者のお世話ができれば」と笑顔で話す。

### 昨年営農組合設立

同集落では、昨年7月に営農組合を設立し、集落内の農地利用調整や農家同士で相談ができる環境を整えた。現在も月に1度集会を開き、営農組合の発展や新規就農者の受け入れ、担い手の育成などの課題について話し合っている。